

あなたの思いはデモで届く！

10/6

フクシマに届く

「原発反対」デモやろう！

9月19日、東京・明治公園に6万人が集まり、原発に対する怒りが爆発！

福島の人たちと連帯しよう！

9/19明治公園での6万人のデモ！ 1000人もの福島の人たちが集まり、自分達を犠牲に原発を再稼動しようとする政府に対して、まさに命をかけて立ち上がっています。全国でも俳優の山本太郎さんをはじめ、多くの人が人生をかけ、原発を止めるために行動しはじめています。

震災を受けて、福島の現実をみて、みんな「何かしたい」と感じている。なら、それを行動にうつそう！ いつの時代も学生の行動こそが未来を決します。福島の声に答え、キャンパスから福島に届くようなデモをやろう！

福島の怒りの声を代表し、ニューヨーク国連本部前で野田首相に抗議する佐藤幸子さん（9月22日、映像：JNNニュース）

福島の市民グループなど野田首相に脱原発を訴え

佐藤幸子さん

野田首相、福島の子もたちを守れないで
原発の安全を世界中に言うのはひきようだ

- ◆「原発の再稼動は認められない！」
 - ◆「立ち上がった福島の人達と連帯したい！」
 - ◆「ヤクザ部隊はキャンパスにいない！」
- ひとつでも「そうだ」と思う人はデモに！

10月フクシマ連帯月間！

☆10月21日は全国大学から
福島大に集まろう！

「フクシマから大学を問う
10・21全国学生集会」

☆法政大では10月6日（木）昼休み
「原発反対！弾圧職員追放！福島連帯」
後期第1波の法大包囲デモ！

☆フクシマとつながる反原発行動を
全国キャンパスで起こそう！

全学連

全日本学生自治会総連合（斎藤郁真委員長）

TEL 050-3036-6464 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp/

原発の再稼動をとめよう！

野田首相は22日の国連演説で、「事故の教訓をいかす」「原発の安全性を世界最高水準に」「原子力利用を模索する国々の関心に応える」「エネルギーは経済の『血液』」などと、原発の再稼動と海外への輸出を宣言しました。しかし、福島原発事故は収束どころか「何度も再臨界している」とさえいわれ、今なお放射能を撒き散らし続けています。

この野田首相の国連演説への抗議し、渡米した佐藤幸子さん（子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク世話人）が語るように、「（福島の教訓から）本当に学びたかったら、安全な原発などないのだということを学んでください。子供たちの命のことを思えば今やらなければならないことは自ずと分かるはず」であるし、「福島の子どもたちを守れないで原発の安全を世界中に言うのはひきょう」です。

そもそも、野田首相は就任時に「原発をなくしていく」かのようなことをいったばかりではなかったか。彼らはまたウソとペテンで騙し、人間の生活も命も犠牲にして、もっと原発で儲けようとしています。絶対に再稼動を阻止しよう！

ヤクザ部隊をたたき出そう！

学生のビラ撒きを監視・盗撮するための職員＝ヤクザ部隊。法政大では、大学がこんな連中を学費で雇い、キャンパスを徘徊させています。学生が自由にビラを配ることも出来ず、原発推進の嘘つき教授は守られ、原発に反対する学生が処分される。こんな大学、絶対に認められない！

このヤクザ部隊は、福島において「放射能は安全」と被爆を強制する御用学者と同様、大学の腐敗そのものの存在です。こんな連中はキャンパスからたたき出すしかない！

「9・19」をキャンパスで！

9月19日、日本最大の6万人で原発反対の集会が行われました。会場の明治公園に人が入りきらず、千駄ヶ谷駅までの道やホームも人で埋め尽くされ、電車が駅に停車できない状況に。そして、街全体を埋め尽くすかのようなデモ！

このデモの力を見てほしい！ これをキャンパスでやれば、今の大学の現実なんて一瞬で変わる！ 学生こそ大学の主人公だ。学生の行動こそが大学を変える。キャンパス中央を学生で埋め尽くし、「原発反対」の大デモをやろう！

福島の声に聴えよう！



9月19日明治公園での、ハイロアクション福島・武藤類子さんのアピール（抜粋）

◆福島県内から、また避難先から何台ものバスを連ねて、たくさんの仲間と一緒に参りました。福島で起きた原発事故の悲しみを伝えよう、私たちこそが原発いらないの声をあげようと、声をかけ合いさそい合ってこの集会にやってきました。

◆すばやく張りめぐらされた安全キャンペーンと不安のはざまで、引き裂かれていく人と人とのつながり。地域で、職場で、学校で、家庭の中で、どれだけの人々が悩み悲しんだことでしょう。

◆今、半年という月日の中で、次第に鮮明になってきたことは、

- ・真実は隠されるのだ
- ・国は国民を守らないのだ
- ・事故はいまだに終わらないのだ
- ・福島県民は核の実験材料にされるのだ
- ・ばくだいな放射性のゴミは残るのだ
- ・大きな犠牲の上になお原発を推進しようとする勢力があるのだ
- ・私たちは棄てられたのだ

◆私たちは疲れとやりきれない悲しみに深いため息をつきます。でも口をついて出てくる言葉は、「私たちの命を奪うな」です。

福島県民は今、怒りと悲しみの中から静かに立ち上がっています。私たちは今、静かに怒りを燃やす東北の鬼です。

◆どうしたら原発と対極にある新しい世界を作っていけるのか。誰にも明確な答えはわかりません。できることは、誰かが決めた事に従うのではなく、ひとりひとりが、本当に本当に本気で、自分の頭で考え、確かに目を見開き、自分ができることを決断し、行動することだと思うのです。ひとりひとりにその力があることを思いだしましょう。

◆私たちは誰でも変わる勇気を持っています。奪われてきた自信を取り戻しましょう。そして、つながること。原発をなお進めようとする力が、垂直にそびえる壁ならば、限りなく横にひろがり、つながり続けていくことが、私たちの力です。

→次は11月6日(日)正午、日比谷野外音楽堂だ！

反原発×反失業！全国労働者集会

すべての原発を停止・廃炉に！ 新自由主義と闘う労働組合のネットワークを！ 解雇撤回－非正規職撤廃！

●呼びかけ●全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部／全国金属機械労働組合港合同／国鉄千葉動力車労働組合 http://www.geocities.jp/nov_rally/

